

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2021年 10月号



© Pierre-Yves Bernard/MSF

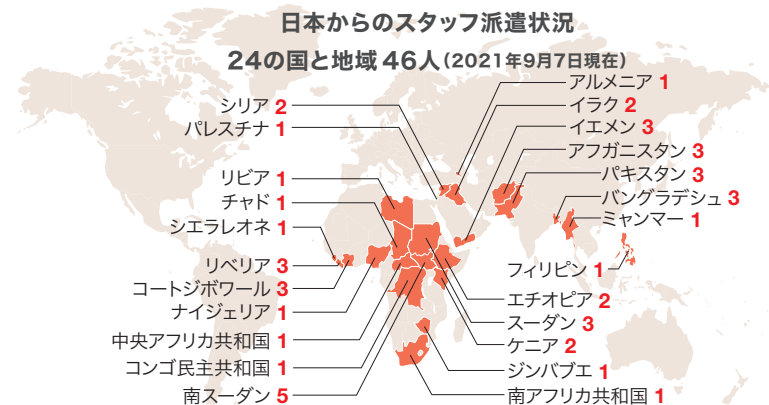
ギリシャの難民キャンプで暮らす子どもと父親。予防接種を受けることができ、ほっとした表情を見せた(2016年撮影)

設立50年特別企画

感染症の予防、拡大の制御の要 「ワクチン」で人びとの命を守る!

特集 アジア・オセアニア地域での活動
誰も取り残さず医療を届けるために

【連載】
もっと知りたい! MSFスタッフの素顔
チーム国境なき医師団の輪





Staff Story – スタッフの声

大勢の子どもたちが接種会場に 皆の努力が実った瞬間

助産師/コーディネーター アサニ美里

2003年にMSFに参加して以来、何度も感染症の対応に当たってきました。2018年10月から約1年間は、コンゴ民主共和国ではしかの緊急対応を担当。コンゴには数年おきにはしかの大流行を繰り返す地域が少なくなく、栄養失調の状態でかかり、命を落とす子どもが多くいます。当時、同時に流行していたマラリアを併発すると、重症化する恐れもありました。

そこで、はしかの予防接種を急ぎましたが、一筋縄ではいきませんでした。広大な土地に小さな村が点在し、道路事情が悪く、ワクチンの温度管理・配送が難しいことも理由の一つでした。南東部のタンガニーカ州には、片道5日かけて食事代わりのバナナを手に移動を続けました。接種会場には現地の保健省の協力で子どもたちが大勢集まってくれ、感無量に。コロナ禍でもこの活動が後回しにならないようにと、そう切に願っています。



© Diana Zeyneb Alhindawi



© Caroline Thirion/MSF

右上/クーラーボックスにアイスバックを詰める。ワクチンの品質を保つためには低温輸送が欠かせない。左上/へき地で予防接種を実施する場合、道なき道を行くことも。下/イラストを使って、ワクチンの安全性や有効性、副作用などを丁寧に説明。現地の人びとの不安を払拭することも重要だ。



© Pierre-Yves Bernard/MSF



2015年、タンザニアでブルンジ難民の人びとに対してコレラの予防接種を実施。約5万6000人が接種会場にやって来た(2015年撮影)

MSFが行っている予防接種とは



感染症流行時の緊急対応のほか、予防接種率が低い国々や難民キャンプなどでは、基礎医療プログラムとして5歳未満児にはしかや髄膜炎、コレラなどの予防接種を実施。また安全を第一に考え、世界保健機関(WHO)の事前認証やSRA*の承認審査を受けて登録認証された、あるいはMSF独自の厳格な審査を受けたワクチンを使用。活動地での品質管理も厳重に行っている。

この50年、MSFでは、はしかやポリオ、コレラ、髄膜炎、黄熱病、B型肝炎など数多くの感染症に対して、安全で有効なワクチンを用いて対処してきました。特に感染症流行時の緊急対応で重要なものは、できるだけ早く、より多くの人にワクチンを接種すること。しかし、常にワクチンが潤沢にそろい、順調に実施できたわけではありませんでした。例えば2016年にザンビアでコレラが流行した際、何と120万人以上が接種対象に。過去の研究結果から、通常2回接種するところ1回の接種でも流行を抑えられると分かったため、緊急措置として1回のみ接種する人を増やし、コレラを封じ込めました。同年にマラウイの離島でコレラが流行した時は、経口ワクチンを1回目は医療機関で投与し、2回目を自宅で接種してもらう戦略をとり、大きな成果を挙げました。もう一つ、各国の保健省が行う定期予防接種の支援も、MSFの重要な使命です。先進国では当たり前に行える予防接種ですが、紛争や自然災害で人道危機にある国や地域では

設立50年 特別企画

感染症の予防、拡大の制御の要 「ワクチン」で人びとの命を守る！

今年、国境なき医師団(MSF)は設立50年を迎えました。これまで、多くの命を守ろうと努めてきた中で、欠かせなかったツールの一つ——それが「ワクチン」です。今号は、50年間の歩みの中でも、ワクチンに関する活動をお伝えします。

無事に 接種完了!



© Laurence Hoenig/MSF

感染症から人びとの命を守るために、予防接種の実施以外にもMSFがすべきことは多岐にわたります。熱に弱いワクチンを低温管理し、悪路でも運搬する業務や、住民たちにワクチンの有効性や安全性、感染予防策を伝える健康教育などがその筆頭です。これからも皆さまのご支援とともに、総力を挙げてこの活動を継続してまいります。

ワクチンの品質管理や 健康教育も重要な要素

中止に追い込まれることも。直面する課題は、長引くコロナ禍でいかに予防接種を継続していくか。はしかが大流行し、2019年1月以降、5歳未満児を中心に6600人以上が亡くなっているコンゴ民主共和国などでも、「子どもたちにワクチンを届ける手立てを探し続けま」と、MSFワクチン接種顧問のバラ・サイッタは強調します。

ご覧ください! ■設立50年特別イベントをオンラインで実施します。詳しくは裏表紙に! ■ワクチン・予防接種の活動について、お子さまにもわかりやすいように解説しています。大人の方もぜひご覧ください! QRコードとスマートフォンからのアクセス方法が示されています。

2021 コロナワクチンをあらゆる人びとに 新型コロナのワクチンや治療薬などが世界で公平に分配されるよう、国際社会に訴えている。写真: Pierre-Yves Bernard/MSF

2019 ワクチン調達に画期的な一歩 MSFがWHO、国連児童基金(UNICEF)らと共に設立した、製薬企業からワクチンを割引購入できる調達機関を活用。通常ギリシャでは一人当たり168ドルかかる肺炎のワクチンを9ドルで入手し、ギリシャの島で暮らす難民の子どもたちに予防接種を行った。

1999 「アクセス・キャンペーン」開始 ノーベル平和賞の賞金を基に、全ての人に安価で適切なワクチンや薬、治療法などが行き渡るよう求める「アクセス・キャンペーン」を開始。HIV治療薬の公平な提供、結核治療薬の低価格化と有効性向上、肺炎ワクチンの値下げなどを企業や社会に訴えている。

1996 ナイジェリアで髄膜炎に対応 髄膜炎が史上最大規模で行ったナイジェリアで、約300万人に予防接種を実施。写真: Remco Bohle

1986 物流センター、疫学研究組織設立 感染症流行時に、迅速に必要な物資を供給するための物流センターを設立。適切な投与量を安定的に低温管理できるオリジナルの予防接種キットも開発した。さらに同年、疫学研究や臨床試験を行う専門機関を設立し、より多くの命を守るための研究を続けている。

1972 初めての予防接種対応 1971年にMSFが設立され、その翌年、中央アメリカの中部に位置するニカラグアの首都マナグアの周辺でマグニチュード6.2(推定)の壊滅的な大地震が発生。MSFにとって初の予防接種プロジェクトとして、被災した子どもたちにはしかの予防接種を行った。

「ワクチン」を届け続けた この50年の活動とは?

*SRA (=Stringent Regulatory Authority) : WHOで定義されている、医薬品の承認を担う信頼できる規制当局のこと。米国の食品医薬品局(FDA)や、日本の医薬品医療機器総合機構(PMDA)などがこれに当たる。

連載

もっと知りたい！
MSFスタッフの素顔

駅前などでMSFスタッフを見かけたことはございませんか？ 支援の輪を広げるための大事な活動。その担当者をご紹介します！



資金調達部
街頭キャンペーン担当
山崎 真純

自己紹介 東京都の下町出身。2013年からMSFに勤務し、支援の輪を広げるために活動しています。ブルーインパルスが好きで、東京2020オリンピック開会日に見た展示飛行にとても感動しました。

ウガンダにて

質問 1 **どんな仕事を担当していますか？**

街頭や商業施設などで、世界各地のMSFの医療・人道援助活動を紹介し、毎月の寄付へのご参加を呼び掛けています。最初は東京から始まり、現在は関東、関西、九州、中国地方で活動しています。私は各地で実施している街頭キャンペーンの運営を統括しています。

質問 2 **ウガンダ視察で心に残ったことは？**

スタッフが街頭で現地の情報や患者さんの声を届けることが大事です。そのために私自身も、経験したことを街頭でお伝えしたくて、2017年にウガンダの難民居住地へ視察に行きました。ある日、1人の女性が、子どもたちを集めて教室を開いているところを見かけました。彼女は南スーダンで英語教師をしていましたが、紛争で避難してきたそうです。「自分自身が大変な状況にあるはずなのに」と、その姿を見て気が引き締まる思いでした。私ができることとして、ご寄付がどのように活動の力になっているかをもっと皆さまに届けられるよう取り組んでいきたいと思えます。

質問 3 **いつも応援してくださる支援者様へメッセージを**

忙しい中、立ち止まってお話を聞いていただくのは非常に難しいのですが、中には「応援してるよ」「寄付してるよ」と声を掛けてくださる方もいて、活動の励みになっています。私たちを見かけたら、お気軽にお声掛けください！



街頭に立つスタッフ。
※新型コロナウイルス感染症対策のため、実際はマスクを着用して活動しています。



長くつらい結核治療を乗り越えた、ダニー君(6歳、中央)。
© Sara Bechstein/MSF

ハバ プアニューギニアの首都ポートモレスビーにあるゲレフ病院において、MSFは国と連携して、結核の診断や治療プログラムに取り組んでいます。2019年、世界保健機関が多剤耐性結核に対して、痛みを伴う注射に代わり副作用の少ない薬を6カ月連続して飲む新しい治療を勧告したことから、治療の継続、経過観察がこれまで以上に重要になっていきます。

結核との闘いは、病院の中だけで完結するものではありません。6歳のダニー君(写真中央)は半年以上、握りこぶし一つぐらいいの量になる錠剤を毎日飲み続けました。それで、ようやく体内から菌を取り除くことができ、多剤耐性結核から解放されたのです。薬を切らさないために、毎月お母さんが診療所に通い、献身的にサポートし続けたたまものでした。

2019年、ラカイン州で続いた紛争で5万人以上が避難民となったミャンマー。MSFは速やかに一般診療と心のケアの移動診療を始め、蚊帳や毛布などの必要物資の配布や、避難所と衛生設備の建設も行いました。

ミャンマー

HIV治療: **9670件**

活動したスタッフ数: **972人**

口リンギヤの人びとを含む避難民などに対し、一般診療、心理ケア、HIV・C型肝炎・結核の治療を行っている。
(1992年から活動)

ハバ プアニューギニアの首都ポートモレスビーにあるゲレフ病院において、MSFは国と連携して、結核の診断や治療プログラムに取り組んでいます。2019年、世界保健機関が多剤耐性結核に対して、痛みを伴う注射に代わり副作用の少ない薬を6カ月連続して飲む新しい治療を勧告したことから、治療の継続、経過観察がこれまで以上に重要になっていきます。

2019年、ラカイン州で続いた紛争で5万人以上が避難民となったミャンマー。MSFは速やかに一般診療と心のケアの移動診療を始め、蚊帳や毛布などの必要物資の配布や、避難所と衛生設備の建設も行いました。

2019年、ラカイン州で続いた紛争で5万人以上が避難民となったミャンマー。MSFは速やかに一般診療と心のケアの移動診療を始め、蚊帳や毛布などの必要物資の配布や、避難所と衛生設備の建設も行いました。

パプアニューギニア

結核治療: **1090件**

活動したスタッフ数: **153人**

国の結核プログラムと連携。MSFは通院の交通費を払えない人のために費用を負担し、結核の治療継続を奨励している。
(1992年から活動)



MSFゴヤルマラ母子病院にある新生児の足形アート。世界に一つだけのカラフルな足形は、難民の人びとの希望の光となっている。
© Hasnat Sohan/MSF

4年前、ミャンマー当局による弾圧を受けた約70万人のロヒンギャ難民がバングラデシュに逃れてきました。「難民キャンプでは、暴行事件や誘拐も発生し、環境は悪化する一方。多くの人びとが絶望感を深めています。国は難民の一部を無人島に移し始めており、医療が手薄な島での生活に不安を募らせる人も少なくありません」。活動責任者のバーナード・ワイズマンは現状をそう説明します。長引く苦境に、難民の中には「まるで屋根のない牢獄にいるようなもの。難民になりたい人などいるはずがない」と、思いを吐き出す人も。



MSFスタッフの診察を受ける入院中の赤ちゃん。
© Pablo Tosco/Angular

バングラデシュ

外来診療: **56万8400件**

分娩助産: **3870件**

活動したスタッフ数: **1982人**

ミャンマーでの迫害から逃れてきたロヒンギャの避難民を中心に一般診療、心のケア、分娩助産を実施。2020年は14カ所の医療施設を支援し、過密な難民キャンプで急増した新型コロナウイルス感染症患者への治療も行った。
(1985年から活動)

皆さまのおかげでできたこと

皆さまからの支援金を支えに、MSFはこれら3カ国に対して一般診療に加え、各地に必要な心のケア、結核・HIV・C型肝炎・新型コロナウイルス感染症への対応などの援助活動を続けています。
※2020年実績。



特集 **アジア・オセアニア地域での活動**
誰も取り残さず医療を届けるために

アジアやオセアニアの地域では、新型コロナウイルス感染症対応を行う一方、当局による弾圧で避難民となった人びとや、病院に通い切れない人びとへの支援も実施。全てのの人に医療を届けるために、国境なき医師団(MSF)が注力してきましたことをご紹介します。

バングラデシュ
希望の足形アート
—世界最大の難民キャンプより—

取り組みを実施しています。この足形アート(上写真)は、小児集中治療室のスタッフが、困難な状況にある中で妊婦が無事に産産でき、新生児がこの世に生まれてくることのできたことを祝い、小さな足形を壁に残し始めたもの。最初は12個から始まり、翌年には50個を数え、いまでは数百個に達しました。一つひとつ形が異なるカラフルな足形は、小さな命が懸命に歩き出そうとしている証し。患者さんやスタッフたちに、前を向く力を与えてくれます。

ご確認ください

寄付に関するご案内

● 寄付の税制優遇措置（寄付金控除）について

MSF日本への寄付は「確定申告」を行うことで寄付金控除の対象となります。申請の際には、MSF日本が発行した領収書を添付してください。なお、年末調整では寄付金控除の申請は行えませんのでご注意ください。

● 領収書のお届け時期について

「毎月の寄付」でご支援の皆さま

・2022年1月下旬までに、2021年度年間領収書をご登録住所宛てにお送りいたします。

「今回の寄付」でご支援の皆さま

・MSF日本への入金確認後、都度発送しております。
 ・1年分まとめて発送の設定にされている方には、2022年1月下旬にご登録住所宛てにお送りいたします。

※例年、お送りした領収書が宛先不明で返送されるケースが多く発生しております。

領収書をご希望の方は、11月末までに公式サイト上のマイページ(右参照)より登録住所のご確認/ご変更をお願いいたします。

● 2021年度の税制優遇措置（寄付金控除）対象の寄付のお申し込みについて

・ゆうちょ銀行振り込み：2021年12月末日付の振込完了分まで
 ・クレジットカード決済：2021年11月以降のお申し込みは2022年度(来年度)の寄付となる場合がございます。ご了承ください。

虐待・搾取・ハラスメントのない活動環境の実現を目指して

MSFでは、70以上の世界各地の活動地、および世界38の事務局で、いかなる虐待や搾取、ハラスメントも許さない活動環境づくりを推進しています。不正行為を予防、発見し、それに対応するため、組織内外からの通報制度を設けています。この制度はスタッフや活動地の患者さん、地域社会に奨励されており、また安心して通報ができるよう、被害者や通報者の機密保持の徹底に努めています。このたびは2020年の状況をご報告します。

2020年、活動地からの通報・苦情は389件で、そのうち150件が虐待ないし不適切行為に当たる事態と確認されました。内訳は、82件が性的虐待・ハラスメント・搾取など何らかの形態の虐待で、当該の理由で37人を解雇しました。残る68件はその他の不適切行為でした。事

務局からは55件の通報・苦情がありました。

前年比で通報・苦情の件数は22%増加しました。通報体制が認知され、勇気を出して声を上げられる環境になりつつある兆しではありますが、一方で、MSFの活動に多くの人に関わっていることを考えると、過少報告の傾向にあります。特に、活動地のスタッフの80%を占める現地採用スタッフや患者さんなどからの通報が、依然として少ないことは課題と捉えています。

MSFは引き続き、虐待やハラスメントのない職場環境を実現・維持するために、また私たちが支援する人びとに危害を加えないために、一丸となって取り組むとともに、透明性を持って皆さまにご報告してまいります。

詳細はこちらから：www.msf.or.jp/information/detail/msfj20210712.html

国境なき医師団日本 事務局長 村田 慎二郎

▶ 領収書に関するご案内



スマートフォンから▶

▶ マイページでのお手続き

(住所等の登録内容の確認・変更を行えます)



スマートフォンから▶

あなたとつながる、ひろがる。

チーム 国境なき医師団 の輪

ありがたいことに、時々皆さまから、「毎月の寄付」や「今回の寄付」以外の寄付方法についてお問い合わせをいただきます。

国境なき医師団(MSF)では、古い物やポイントによる寄付方法をご用意しています。

ぜひご検討いただくとともに、お気軽にご支援いただける方法として、どうぞ周りの方にもお知らせください!

不用品を寄付する

使わないけど手放せなかったもの、手放すなら何かに役立てたいと思っていたもの。そのような品物をお持ちなら、買い取りプログラムを使ってMSFをご支援いただけないでしょうか? 送料無料で、お気軽にお申し込みいただけます。年末の片付けの機会などに、ぜひご検討ください。



© Yuzuko

詳細・お申し込み

切手やはがき、貴金属などをお持ちの方は

● お宝エイド

切手やはがき、金・貴金属、各種金券、ブランド品、骨董品など、家の中で眠っている“お宝”で社会貢献をするプログラムです。物品をお宝エイド受付センターに送付いただくと、査定額に10%上乗せした額(一部対象外有)がMSFに寄付されます。

お宝エイド受付センター
03-6265-7595

10:30~19:00 年中無休(年末年始除く)



スマートフォンから▶

本やCDなどをお持ちの方は

● キモチ。

ブックオフが運営する、リユース品を通して「応援したい、頑張ってるほしい」という思いを届けるプログラムです。読み終わった本・マンガや、使わなくなったCD、DVD、ゲーム機器などをブックオフに送付いただくと買い取り代金が寄付になります。



スマートフォンから▶

ポイントで寄付する

クレジットカードでお買い物をした際などに付与されるポイント。使う機会がない、気づいたら失効間近……そんなときは、ぜひMSFへの寄付をご検討ください。さまざまなクレジットカードのポイントでご支援いただけます。



© Yuzuko

詳細・お申し込み

以下のクレジットカードやプログラムのポイントが対象となります。詳しくは各社のサイトをご確認ください。

● エポスカード



スマートフォンから▶

● ジェシービー Oki Dokiポイントプログラム



スマートフォンから▶

● ダイナースクラブカード / TRUST CLUBカード

「クラブ・オンライン(www.diners.co.jp/signon)」からお手続きください。

● ジャックスカード

「インターコムクラブページ(<https://www.jaccs.co.jp/>)」からお手続きください。

※買い取り対象や送付方法に関するお問い合わせは、MSFではなく、各プログラムの運営先にご連絡ください。

※物品は、MSFではなく、必ず各プログラムの運営先に送付をお願いいたします。また、上記のプログラム以外では物品寄付はお受けしていません。ご了承ください。

■ ご相談はお気軽に

遺言書の作成方法から注意すべきポイントまで、遺贈寄付について詳しくまとめた資料をご用意しています。またお電話で個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください(ご相談無料)。

国境なき医師団 遺贈寄付ご相談ダイヤル

03-5286-6430

(平日10:00~17:00) 担当: 萩野・今尾
Eメール: legacy@tokyo.msf.org



希望のボタンをつなぐ仲間たち。



世界を見る視点を教えてくれた父。

さんが掛けてくれた言葉です。遺贈寄付をしてくださった方お一人一人のお名前を拜見するたび、私たちの活動とは、人生の最期に私たちがへ託してくださった思いや希望を、苦しむ人びとに届ける仕事でもあると痛感します。

私の父は商船のキャプテンでした。長旅から帰ると、父はよく「一番大事なのは『仁』(思いやり)なんだ」と言っていました。父から、そして皆さまから託された思いをしっかりと受け止め、希望をつないでいきたいと思うのです。

思いを受け取る。希望をつなぐ。

今号のテーマ

私たちが相談員です!



おぎの かずのぶ 萩野 一信

ご遺贈を検討される過程では、ご不安なことも出てくるかと存じます。ぜひお気軽にご相談ください。お待ちしております。



いまお れいこ 今尾 礼子

前を向いて生き方を考えている方々からお話を伺えることをいつもうれしく思っています。どうぞお気軽にお問い合わせください。

遺贈寄付相談室だより

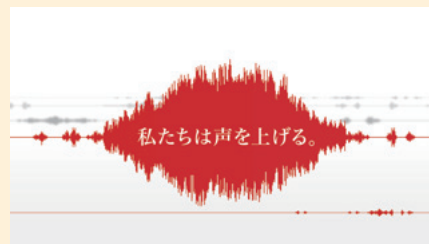
このコーナーは、遺贈寄付ご相談窓口の二人が、皆さまからよく頂く疑問や気になるテーマをピックアップしてお届けします。

国境なき医師団(MSF)は、1971年の設立から今年で50年を迎えました。世界各地で人びとに医療を届け、活動地で目の当たりにする非人道的な状況について声を上げてきた半世紀をお伝える特別企画をご用意しました。

1 特設ウェブサイトを公開中！

ご覧ください

- ・現状を変えるために、「私たちは声を上げる。」特別ムービー
- ・MSFスタッフ10人のインタビュー
- ・写真と年表で振り返る、MSF半世紀の軌跡



2 11月にスペシャルゲストをお招きしたオンラインイベントを実施！

当日の申し込みでも参加可能！

「いとうせいこうさんと考える、なぜ人道援助をするの？」

11月3日(水・祝日) 16:00~17:30

作家・クリエイターのいとうせいこうさんをお招きしたトークイベント。独立・中立・公平の原則を守るとはどのようなことなのかなどについて考えます。



熱い対談をお見逃しなく！

「クロストーク プロフェッショナル対談」

11月18日(木) 20:00~21:00

国内外で活躍中の演出家、宮本亜門さんをお招きし、仕事の喜びやジレンマなどについてMSFスタッフと対談します。



メッセージは締め切り間近！

「私たちは声を上げる。クロージングイベント」

11月27日(土) 16:00~17:00

俳優の別所哲也さんが、皆さまから募ったMSFへのメッセージを紹介し、下記サイトからメッセージをお寄せください！(メッセージは11月8日(月)まで!)



「世界といのちの教室」スペシャル版

11月23日(火・祝日) 16:00~17:30

MSFが通常は小学5・6年生向けに行っている教育プログラムを全ての人向けに行う公開授業です。

全イベントの詳細とお申し込みはこちらから！

www.msf.or.jp/50th/

*後日、上記ウェブサイトにてイベントの録画映像を掲載する予定です。



スマートフォンから▲

*イベント名や開催日時は予告なく変更する場合があります。最新情報は上記ウェブサイトからご確認ください。

ニュースレター

ACT!

2021年10月号

発行元

特定非営利活動法人 **国境なき医師団日本**

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199

通話料無料 平日9:00~18:00/
土日祝日、年末年始*休業
※2021年12月29日から2022年1月4日まで休業

*ご住所に変更がある場合は、上記までご連絡ください。
※新型コロナウイルス感染症対策により、場合によっては寄付によるお手続きや領収書の発行といった、事務対応に遅延が発生する可能性があります。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430

担当者直通 平日10:00~17:00/
担当: 荻野、今尾

国境なき医師団は、世界約70の国と地域で活動する、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機に瀕した人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。年次活動報告書 www.msf.or.jp/library/annualreport/

ぜひチェック＆フォローしてください

公式ウェブサイト

www.msf.or.jp



Facebook @msf.japan



Twitter @MSFJapan

最新ニュースやイベント情報、メディア出演情報などをお知らせ



Instagram @msf_japan

活動中のリアルな風景や、スタッフ・患者さんの姿をご紹介します



LINE @msf_japan

最新ニュースやイベントのご案内、スタッフの活動レポートなど



YouTubeチャンネル 国境なき医師団日本

音や風景とともに活動地の様子が分かる

ご協力をお願いします

●今号の『ACT!』の感想をお寄せください

ぜひ以下の項目に、郵送あるいはWEBからご回答ください。

- ①特に印象に残った記事を2つと、その理由
- ②あまり興味を持たなかった記事があれば、その記事と理由
- ③ご意見・ご感想

ご協力くださった方の中から10名様にMSFオリジナルランチバッグ(右写真)を差し上げます。



締め切りは**2021年11月末日**です。

郵送 郵便はがきに、お名前、支援者番号、アンケート回答をご記入の上、左記の住所までお送りください。

WEB <https://form.run/@act-202110>



スマートフォンから▶

海外派遣スタッフを募集中！

ご興味のある方はこちらから

www.msf.or.jp/team_msf/expats/works



スマートフォンから▲